

# メキシコ合衆国チアパス州タパチュラ市による 姉妹都市提携の希望

2012年11月  
在メキシコ日本国大使館

今般、メキシコ合衆国チアパス州タパチュラ市より、日本の都市との姉妹都市提携を希望する旨の要望がありました。以下、タパチュラ市の概要を紹介致します。

## 1 市の概要

### (1) 基礎的データ

所在地：メキシコ合衆国チアパス州タパチュラ市（西経92度16分，北緯14度54分）

市面積：303 km<sup>2</sup>

人口：233,185人（2010年国勢調査）

日本との時差：夏-14時間，冬-15時間

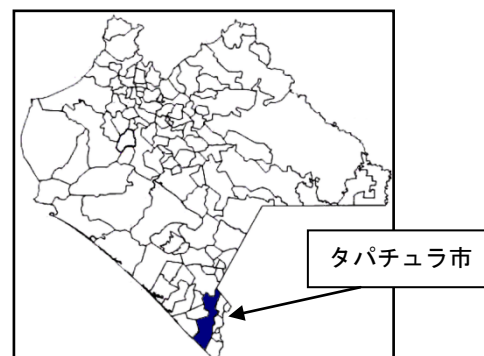
姉妹都市：グアテマラ共和国ケツアルテナンゴ市，中華人民共和国東営市，  
アメリカ合衆国ウェスト・バレー・シティ

公式ウェブサイト（スペイン語）：<http://www.tapachula.gob.mx/>

【メキシコ合衆国】



【チアパス州】



(2) タパチュラ市は、メキシコ合衆国南部に位置するチアパス州の中でも南端に位置する港湾都市で、グアテマラ共和国との国境に程近い自然豊かな地です。

## 2 タパチュラ市の歴史

この地は、1486年に、アステカ帝国第8代皇帝・アウイツォトル（領土拡張を積極的に行った君主）により派遣されたティルトル将軍により、アステカ族の村として創立されました。その後、スペインによるアステカ征服により、スペインの植民地の一部となりましたが、1821年のメキシコ独立により、メキシコ国土の一部となりました。

た。1842年には市に昇格し、現在に至ります。



### 3 タパチュラ市の特徴

タパチュラ市は、最初の組織的な日本人の中南米移民団である「榎本移民団」が到着した地です。移民団は、1897年3月に横浜を出発、サンフランシスコ、アカプルコを經由し、同年5月19日にタパチュラ市にあるサン・ベニート港（別名マデロ港、現在のチアパス港）に到着しました（36名、内1名は船内で死亡）。移民団は、愛知県、兵庫県、宮城県、岩手県の出身者により構成されていました。残念ながら、榎本移民団は、資金不足や入植時期が不適當だったことが原因で、わずか3カ月で分解してしまいましたが、その後移民団の一部はチアパス州に残り、1905年に日墨協働会社を設立。同社は日系人学校建設や西和辞典編纂等に尽力しました。

現在、メキシコには多くの日系人が居住していますが、その先駆けとなった地がタパチュラ市です。なお、現在も彼らの子孫が多く同市に居住しています。

### 4 タパチュラ市の産業

古くからメキシコと中米の交通の要衝として栄えたタパチュラ市の主要産業は、畜産業（牛）、農業（コーヒー、バナナ、カカオ、マンゴー、さとうきび、大豆等）、観光産業です。また、太平洋岸には、メキシコ主要港の一つであるチアパス港を擁し、貿易港としてのみならず、観光クルーザー等も寄港しています。近年は、エコツーリズムにも力を入れ、コーヒー農園、マングローブ林散策等が行われています。



（↑マンゴー栽培）



（↑大豆農場）



(↑ マングローブ林)



(↑ チアパス港の様子)

## 5 姉妹都市に関するタパチュラ市の意向

文化、教育、経済、観光、科学技術面における交流を希望しています。また、タパチュラ市は港湾都市であり、日本最初の中南米移民団（愛知県、兵庫県、宮城県、岩手県）を受け入れた歴史がありますが、人口で同規模、地勢やその他特徴が共通する都市との姉妹都市提携を希望しています。

### 【お問い合わせ先】

○外務省大臣官房総務課地方連携推進室

電話 03-5501-8491

メール [gaimu-renkei@mofa.go.jp](mailto:gaimu-renkei@mofa.go.jp)

○在メキシコ日本国大使館 広報文化班

電話：+52 55 5211 0028

メール：[miwa.yoshizawa@mofa.go.jp](mailto:miwa.yoshizawa@mofa.go.jp)

(了)

なお、タパチュラ市以外の都市でも日本の自治体と姉妹都市提携を希望している都市があります。詳しくは、以下の姉妹都市募集情報をご覧ください。

外務省ホームページ内「グローバル外交ネット」

[http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/local/action/sf\\_city.html#collection](http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/local/action/sf_city.html#collection)